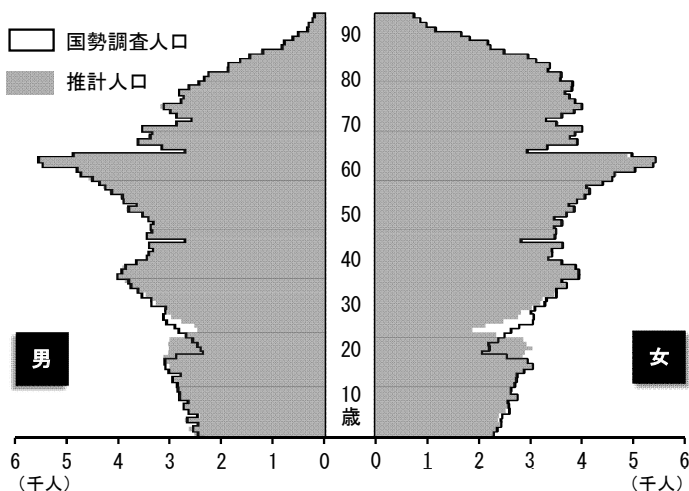


## 人口ピラミッドのズレ！？

鳥取県の人口ピラミッド(平成22年10月1日現在)



出所: 総務省統計局「国勢調査」、鳥取県統計課「鳥取県年齢別推計人口」

注: 推計人口の満95歳以上は各歳別の表章がないため、94歳までを図示。

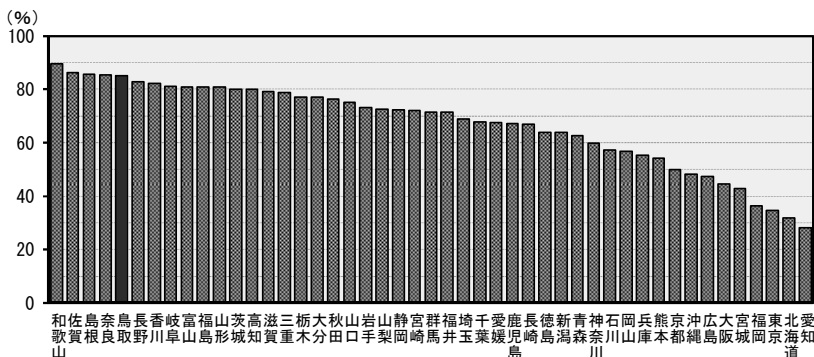
平成27年は国勢調査の実施年でした。国勢調査は、5年に一度、国内に住む全ての人・世帯を対象とする統計調査です。正確な人口の把握だけでなく、配偶関係・就業状態・世帯構成など様々な属性別の実態を捉えるため、国の最も重要な統計とされています。

国勢調査の実施年と実施年の間について、県では、直前の国勢調査人口に各種届出から得られる人口動態(出生・死亡と県外転入・転出)を加減し、推計人口を算出しています。今回の集計結果が固まれば、それを反映して推計人口も遡及補正することになります。

もっとも、推計人口の数字は国勢調査人口から極端に乖離するわけではありません。前回国勢調査による人口ピラミッド(各年齢の人口を横向き棒グラフにして積み上げた図)を、当時の推計人口によるピラミッドと比べて見てみましょう。両者がほぼ重なっていることが分かります。しかし、10代後半～20代半ばのズレは小さくありません。理由の一つには、人々のライフサイクルにおける、この年代での移動機会の多さがあります。【34ページに続く】

## 若者は出たり入ったり

他都道府県の大学へ入学した割合(平成27年)



出所: 文部科学省「学校基本調査」

注: 各都道府県所在高校別の大学入学者数のうち、同一都道府県の所在大学以外へ入学した者の割合。

10代後半は、就職・進学によって故郷を離れる人が多い年代です。本県は、平成27年の大学進学者のうち県外大学へ進んだ人の割合が全国第5位、短大でも第7位と、かなり県外志向が強いという特徴があります。

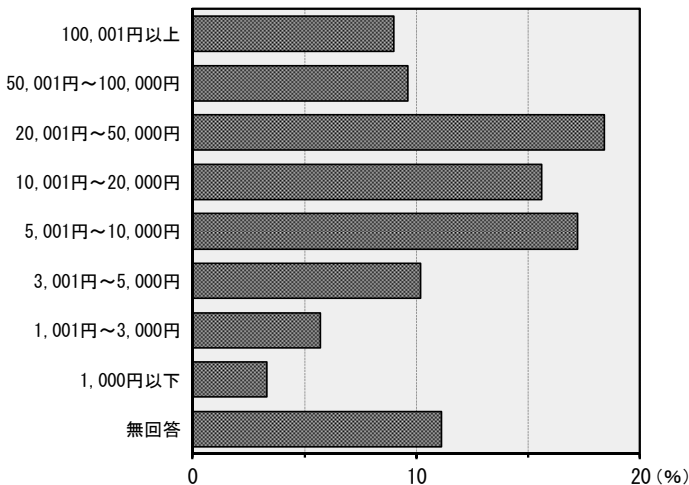
人口統計上の問題は、この際、住所変更の届出をせずに転居する人がいることです。想定される典型的なケースを挙げてみましょう。

住民票を県内に残したまま県外に移り住む場合、推計人口には転出の事実が反映されません。一方、国勢調査が行われると実際の居住地の方で把握されます。かくして、この間の推計人口は過大に歪められてしまいます。国勢調査後は、その結果から推計人口にも補正がかけられますが、卒業等により再び届出なく県内へUターンすると、今度は転入の事実が反映されません。その次の国勢調査まで、推計人口は過小に歪められることとなります。

12ページで見た人口ピラミッドの部分的なズレは、このようにして生じるものと考えられます。正確な年齢別人口を把握するためには、5年に一度の国勢調査による推計人口のリフォームが不可欠というわけです。

## ネット通販のご予算は？

インターネットで商品・サービスを購入した最高利用金額の分布



出所：総務省「通信利用動向調査(世帯構成員編)」

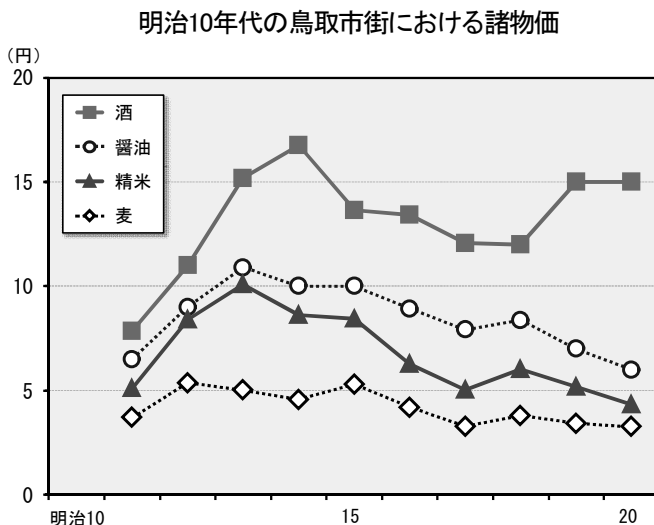
注：対象は、鳥取県の15歳以上のインターネットでの購入経験者(集計人口 329 人)。

「ポチる」という言葉をご存じでしょうか？『デジタル大辞泉』によると、「ウェブサイト上のストアで購入ボタンを押す、という意味の俗語」だそうです。自宅に居ながらにすることができるインターネット通販は大変便利ですから、思わずポチっポチっと予定以上の買物をしたことがある人も少なくないかもしれません。

総務省の「通信利用動向調査」によれば、インターネットによる商品・サービスの購入経験者(15歳以上)の最高利用金額は、全国で平均30,643円、鳥取県では平均30,100円となっています。ただし、人によって状況は様々のようで、グラフからは幅広い金額区分への分布が確認できます。最も多いのは2万円～5万円の区分ですが、10万円を超えるという人も1割近くに達しています。

買物は計画的に — 。実店舗でもネットでも心がけたいものですね。

## 130年前のデフレーション



出所：鳥取県編『鳥取県統計書』

注：1石(≒180リットル)当たりの当年価格。

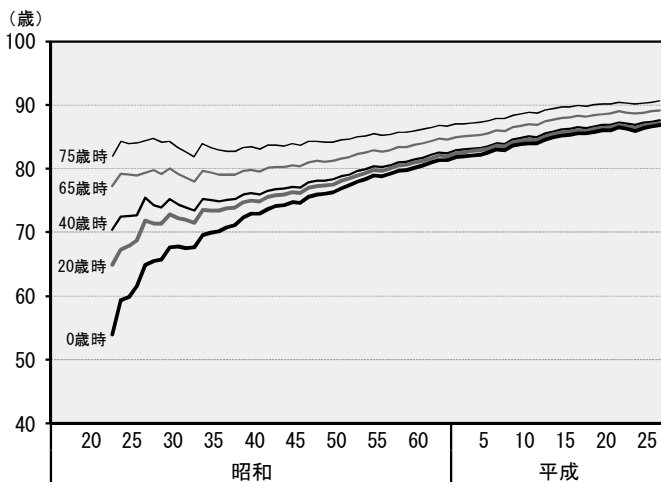
近年、物価の動きに注目が集まっています。歴史を振り返っても、モノやサービスの値段は各時代の大きな関心事でした。明治に入って最も早く統計調査が始まった分野の一つでもあります。当時の資料から、明治初期の鳥取市街における主要商品価格を見てみましょう。

グラフのとおり、物価の趨勢には明治14年頃に一つの潮目があったようです。この年は、島根県に一時併合されていた鳥取県が再び分離、成立した年。全国的には松方正義大蔵卿による金融引締めと緊縮財政が始まった年として知られます。物価はそれまでの上昇基調から反転したといいますが、鳥取でも4年間で米価が半額になるなど、激しい下落が起こっていたようです。

松方財政の政策的評価は歴史家に委ねるほかありませんが、大きな社会変動のなか、再置直後の本県で物価が重要な経済指標として注視されていたことは確かでしょう。

## 長寿への足取り

日本人女性の平均余命の推移



出所: 厚生労働省「完全生命表」、「簡易生命表」

注: 各年におけるx歳の平均余命がy年であるとして、ここではx+y歳を折れ線グラフにて表示している。紙幅の関係で女性のみ。

日本は長寿の国です。世界保健機関の最新の統計(*World Health Statistics 2015*)でも、日本人男性の平均寿命は世界第6位、女性は第1位にランクされています。

ところで、平均寿命の定義をご存じでしょうか？ — 0歳の平均余命のことをいいます。平均余命は、年齢別死亡率が不変という前提で、ある年齢の人があと何年生きられるのかという期待値です。例えば、20歳の平均余命が60年であるとき、この時点で20歳の人は平均的に80歳(=20+60)まで生きられる計算になります。

この年齢別平均余命について戦後の年次推移をグラフにしてみると、どの年齢をとってもほぼ一貫して右肩上がり、着実に人々の平均余命が伸びてきたことが分かります。また、その初期に注目すれば、特に若年層ほど伸びが急激で、夭折してしまう子どもたちの減少が長寿化に大きく寄与したことをうかがえます。